

■ 都市気温

都市排熱

計画目標 ・ 都市排熱が抑制されていること

現 状

■ 指標：年間平均気温（都市部、郊外部）

一般局9局において測定した年間平均気温（2004年度実績）は、次のとおりです。

川崎（大師・田島・川崎）・幸の年間平均気温は17.1℃で、多摩・麻生の年間平均気温は16.3℃でした。

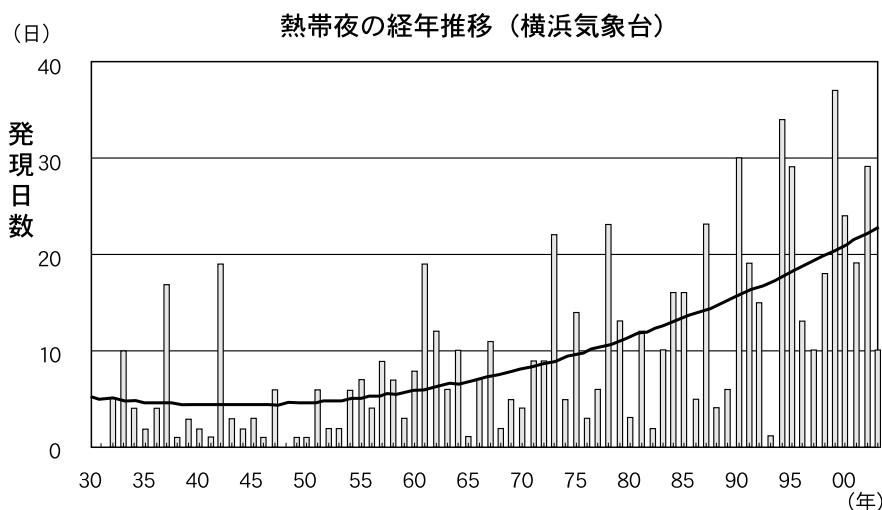
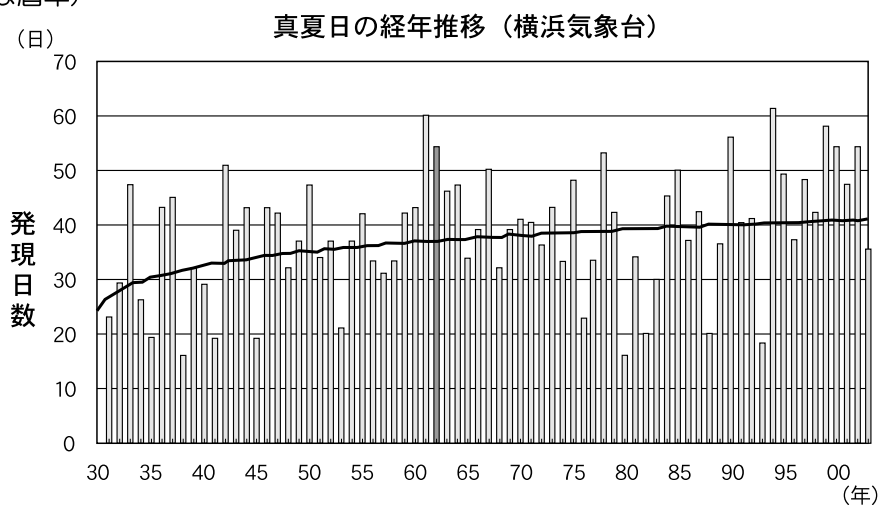
地域	臨海部			内陸部			丘陵部		
測定局	大師	田島	川崎	幸	中原	高津	宮前	多摩	麻生
平均気温（℃）	16.9	17.3	17.1	17.2	16.6	16.9	16.5	16.5	16.1

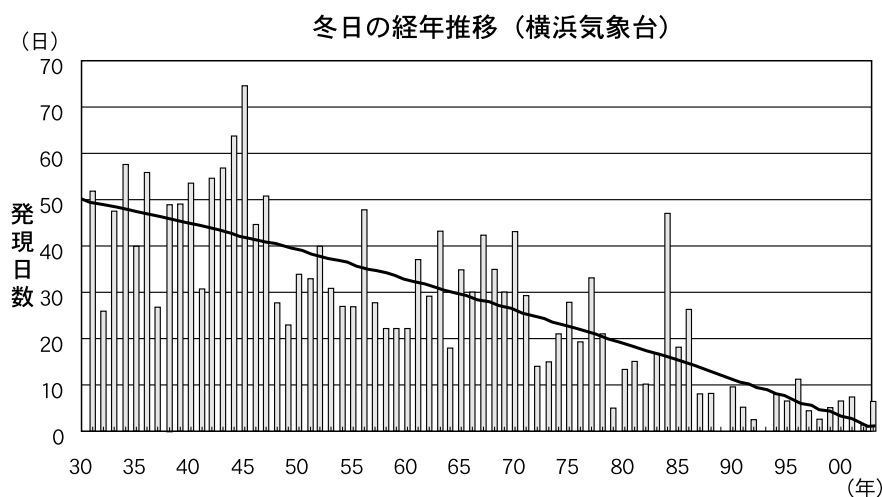
（注）宮前測定局は2004年2月に移設したため2004年1月までの平均気温を参考値として掲載しています。

横浜気象台における1930年から2003年までの真夏日、熱帯夜、冬日の経年推移は、グラフのとおりです。

近年、真夏日（最高気温が30℃以上の日）の日数が増加していますが、熱帯夜（日最低気温が25℃以上の日）の日数の方が顕著な増加傾向にあります。これは、明け方の気温の下がり方が鈍っていると云えます。

また、冬日（最低気温が0℃未満の日）となる日が極端に少なくなっています。（出典：横浜気象台HP、データは暦年）





なお、2004年度の一般局における市内の真夏日、熱帯夜、冬の発現日数は、次のとおりです。

地域	臨海部			内陸部			丘陵部			
	測定局	大師	田島	川崎	幸	中原	高津	宮前	多摩	麻生
真夏日（日数）		57	65	59	63	64	61	62	59	57
熱帯夜（日数）		48	57	53	54	41	43	31	35	23
冬 日（日数）		2	2	0	2	8	4	14	13	19

主な施策の概要

具体的施策名

2004（平成16）年度実績

2005（平成17）年度計画等

Ⅱ-5-1 ヒートアイランド防止対策の推進

Ⅱ-5-1-1 人工排熱の低減

都市の排熱を抑制する省エネルギー対策の推進	【Ⅲ-3-1 施策参照】	【Ⅲ-3-1 施策参照】
風の通り道等に関する調査研究の推進 【環：緑政課】	□調査研究状況	□計画

Ⅱ-5-1-2 人工被覆物の改善

樹林地の保全及び緑化の推進	【Ⅱ-2 施策参照】	【Ⅱ-2 施策参照】
水の循環構造の保全	【Ⅲ-4-1 施策参照】	【Ⅲ-4-1 施策参照】

ヒートアイランド現象

都市域において、人工物の増加、地表面のコンクリートやアスファルトによる被覆の増加、それに伴う自然的な土地の被覆の減少、さらに冷暖房等の人口排熱の増加により地表面の熱収支バランスが変化し、都市域の気温が郊外に比べて高くなる現象。この現象は、都市及びその周辺の地上気温分布において、等温線が都市部を中心として島状に市街地を取り巻いている状態により把握することができるため、ヒートアイランド（熱の島）といわれる。